NIRAICHI DAYORI

韮崎市議会議員『いしかわ一郎』活動報告ペーパー

にらいち便り

vol.4

ゆ～ぷるにらさきを廃止で終わらせず、次のまちづくりへ

ゆ～ぷるにらさきが、3月末をもって廃止となりました。

「どうして急に」「子どもの遊び場だったのに」と、驚きや戸惑いを感じた方も多かったのではないでしょうか。

私はゆ～ぷるにらさきの廃止条例に賛成しました。つまり、市が運営から撤退することに賛同したことになります。この2年半の議会活動の中で、最も難しい判断でした。

私は温泉が好きです。ゆ～ぷるにらさきも自宅から近く、議員の中でも利用していた方だと思います。だからこそ、なくなってほしいと思ったことは一度もありません。では、なぜ廃止という判断になったのか。代表質問で約1時間にわたり確認した中で見えてきたのは、ゆ～ぷるにらさきが開設当初から構造的に収支が厳しい施設だったということです。仮に利用者が多く駐車場が満車だったとしても、現在の料金体系や施設規模では黒字化が難しく、慢性的に赤字が出やすい仕組みでした。

市も、課題と捉え令和6年度から、民間事業者による運営で収益構造を改善できないか検討していました。しかし、民間業者との協議が9月～10月頃にかけて破談してしまい、民間による継続運営の見通しが立たなくなりました。さらに、数年後には約6億円規模の大規模改修が必要になることや、市立病院の厳しい経営状況、市の貯金にあたる財政調整基金も当初予算ベースで残り約3億円の見込みであることなどが重なりました。



もちろん、この数字だけで市の財政状況すべてを判断できるものではありませんし、不安を煽りたいわけでもありません。ただ、こうした状況が重なり、市として運営を続ける余力がないと判断せざるを得なかったのだと受け止めています。

ゆ～ぷる廃止から見えたまちの課題と未来

一方で、今回の進め方には大きな課題がありました。9月議会の時点では、市は運営を継続する趣旨の答弁をしていました。その後、12月に突然の廃止方針が示され、私自身も寝耳に水でした。市民の皆さんからすれば、「もっと早く説明してほしかった」と感じるのは当然です。この点については、市長からも謝罪がありました。やむを得ない事情があったとしても、情報共有のあり方は大きな反省点です。ゆ～ぷるにらさきを福祉施設として考えれば、赤字であっても必要だという考え方もあります。私もその意見を否定するつもりはありません。それでも今回は、一度、市としての運営を廃止せざるを得ない状況だったと考えています。

現在、市は再び運営を担ってくれる事業者を探しています。私も、何とか良い形で活用が続けられないか、可能性を探っていきます。今回の件を、単なる「施設の廃止」で終わらせず、市の財政や公共施設のあり方を、市民の皆さんと共有し、考えていくきっかけにしていきたいと思います。

廃止の経緯年表

令和4年	開設から26年、老朽化により修繕費・運営費が増加。令和11年度に約7億円の大規模改修見込み。光熱水費等の高騰で年間経費が1億円超に。
令和5年	運営手法見直しのため、指定管理期間を5年から3年へ短縮。
令和5年～7年3月	収支改善や民間運営の可能性を探るため、調査の実施を決定・実施。
令和7年6月	18社に意向確認、関心を示した9社へ意向調査。
令和7年9月頃	民間事業者から提案を受け、継続可能性を協議。その後、民間運営にも改修・リニューアル等で約14億円※の行政負担が必要と判明。
令和7年11月	継続困難と判断し、廃止方針を決定・発表。
令和8年	説明会等を踏まえ、廃止条例案を提出。議会で審議・議決。

※リニューアル費用・大規模改修費用を含めた行政負担として答弁された金額。

〈出典〉令和8年第1回市議会定例会代表質問議事録を元に作成